



Casa Brovarone

A Century of Dino Design
1926-2026 at Dino Point

ディーノの駆け込み寺「Dino Point」に
カーサ・ブロヴァローネが完成した!

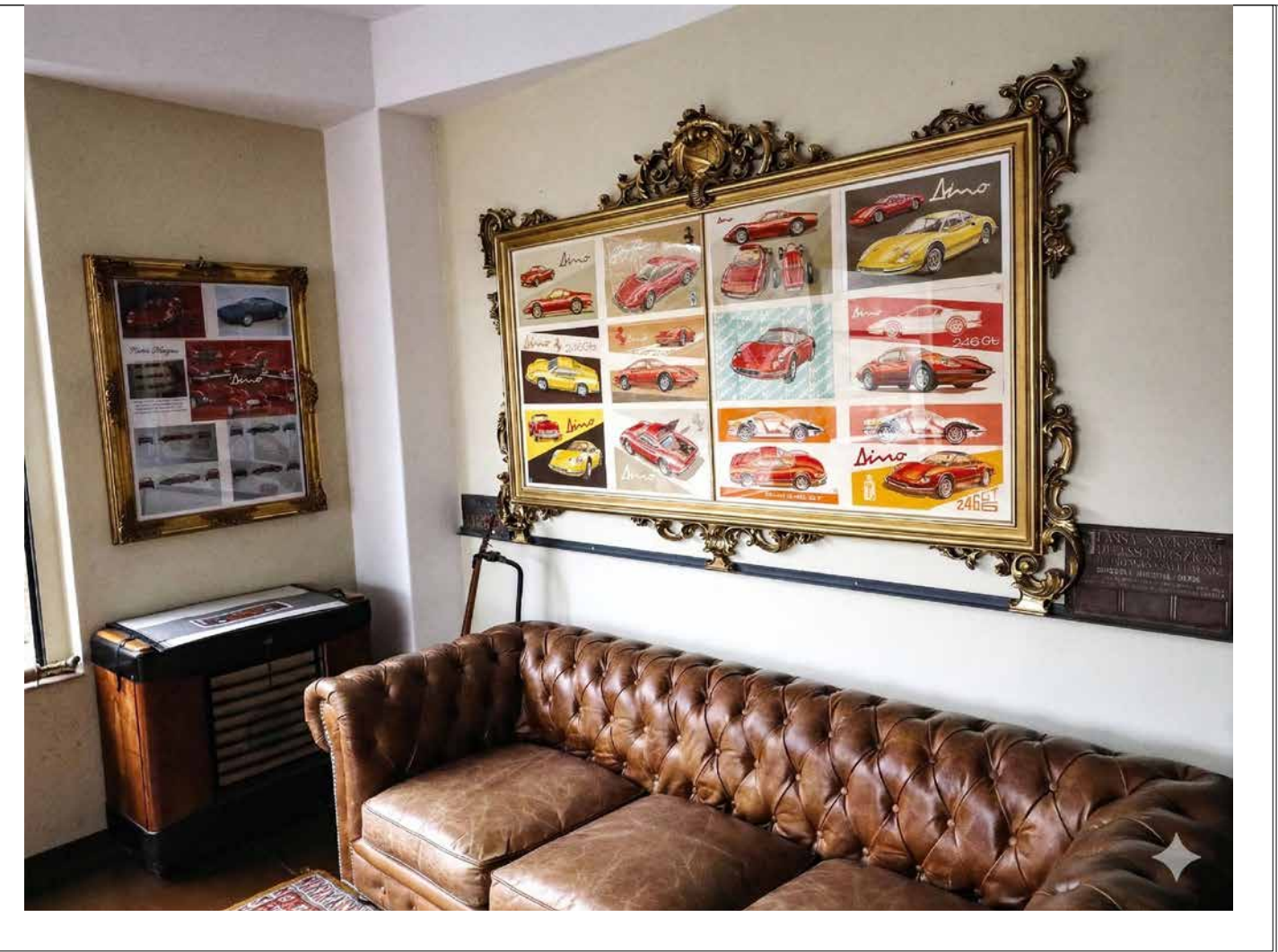
Text : XXXXXXX (●●●●) Photo : XXXXXXX (●●●●)
Dino Point Via G. Donizetti, 109-111, 24030 Brembate Sopra (BG)Italy
<https://www.dinopoint.it/>



ダミー歴史的な低金利には相変わらず変化の兆しもないだが、投資環境に目を向けてみれば



ダミー歴史的な低金利には相変わらず変化の兆しもないだが、投資環境に目を向けてみれば



Casa Brovarone

A Century of Dino Design 1926-2026 at Dino Point

ハイブリッド・パナメーラの実力検証。ダミー パナメーラの実力検証。ダミー

「"Casa Brovarone" - Anniversary 1926-2026" が完成したぞ！」とベルガモのウォルター・スクデレッティから電話が掛かってきたのは新年早々のことであった。ウォルターは昨年から2026年が重要な年だと口を酸っぱく語っていた。なるほど、この展示がそのアウトプットのひとつなのか。さすがに仕事が早い。彼は当地ベルガモに「ディーノの駆け込み寺」と筆者が命名しているスペシャルワークショップ Dino Pointのオーナーであり、同時にオーナーズクラブ「ディーノ・クラブ・イタリア」の会長でもある。ワークショップファシリティの一等地にクラブルームを開設し、ディーノ・エンスージアスト達に開放している。今回はそのクラブハウスを「プロヴァローネの部屋」として、彼の生誕100年を真摯に祝ったワケである。

壁一面に飾られた資料。最初に目に入るのは、ディーノ初期プロトタイプが誕生するまでの物語を記録したパネルだ。そこにはフェラーリから提供された詳細な寸法データや、ボディを形作るために必要な治具の製作過程

が記されている。足元にある木製の骨組みは、まさにその治具のサンプルであり、この複雑な造形からあの美しい車たちが生み出されたのだという事実を知ることができる。

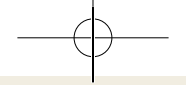
さらに歩を進めると、ウォルターとプロヴァローネとの深いつながりを証明する資料が飾られている。「これは何年も前、彼が私のためにプロトタイプを描いてくれた宝物です。」ウォルターは目を細める。隣には、プロヴァローネが弱冠19歳の時に描いたというデッサンが並ぶ。どれも希少な歴史を証明するエビデンスだ。

展示のハイライトの一つは、伝説的なディーノにまつわる資料だ。206、そして246GT。プロトタイプから最終的な量産モデルに至るまでの進化の過程が、当時のポスターや緻密な設計図と共に展示されている。特に1965年のパリ・サロンを彩ったポスターや、トレーシングペーパーに描かれたオリジナルの設計図は圧巻だ。繊細なラインで描かれた寸法入りの図面など、彼曰く「これらを手にすることができるのは、ほとんど奇跡に近いことです」

部屋の片隅には、美しい手書きのレターが額装されている。彼はこれを、単なる文章ではなく絵画だと表現する。そこには1965年当時、ピニンファリーナによるデザインが、当初はエンツォ・フェラーリの意向と合わず、紆余曲折を経て認められていったという、開発現場の生々しい物語が綴られているのだ。また、フェラーリF40についても、最初のプロトタイプがフェラーリ側に受け入れられず、プロヴァローネがピニンファリーナのスタッフと共に修正を重ねてあの究極の形を作り上げたという秘話も紹介されている。

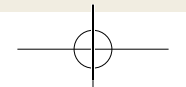
この部屋で最も象徴的なのは、古い木製のスライドドアかもしれない。そこには「1926」という年号が刻まれている。「このドアは1926年に作られました。つまり、プロヴァローネと同じ100歳なのです。彼の記念すべき部屋に、同じ年月を刻んできたドアがある。これは非常に感慨深いことです」とウォルターは締めくくると。まさに彼のプロヴァローネへの敬意に溢れた素敵な「ミュージアム」である。





Casa Brovarone

A Century of Dino Design 1926-2026 at Dino Point





ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば日本◎株や為替相場などは◎つねに変動している◎のでいつでも資産◎成のチャンスをつか◎むことができるわけ

ハイブリッド・パナメーラの実力検証。ダミー

Dino Pointはウォルターのディーノとアルド・プロヴァローネへの深い愛から生まれたものだ。至高のエンジンを搭載したあらゆる名車たちを蘇らせるため、2,500平米という広大な敷地を彼は用意した。板金・ペイント、インテリア製作、エンジン・リビルト、そしてスベアパーツのリプロダクションという、およそレストレーションに必要なすべての機能を統合した専用ファシリティをあとという間に構築してしまった。その背景には、彼が顧客として付き合ったショップの姿勢への落胆があった。プロ意識に欠ける仕事ぶり。複数のショップや職人の間を愛車が転々と連れ回される現状……。それゆえにレストレーションの完遂まで何年もの歳月を費やしてしまう、旧態依然とした業界の構造に疑問を抱いたのである。

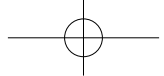
Dino Pointの組織体制は、まさにこうした諸問題を解決するために設計された。特筆す

べきは、前述のような、あらゆる工程を自社内で完結させる「インハウス体制」の徹底だ。一度ピットに入れば、作業がすべて完了するその日まで、車両が施設の外へ運び出されることは一切ないのである。ウォルターはそのためにハードウェアを充実させたのはもちろんだが、特に力を入れたのが職人の育成だ。地元の若い世代へレストレーションの工程を指導し、一人前に育て上げるのだ。

現在のDino Pointは2018年創業という若い会社であることを知ると誰もが驚く。今や、世界各国から数多くの注文が入り、サイモン・キッドストーンのようなクラシックカーのエキスパートも顧客の一人だ。ウォルターははっきり言わないが、フェラーリクラシケの仕事も多数請け負っているようなのだ。ディーノマニアの貴殿、そして上述の展示に興味のある方はDino Pintにコンタクトを取って訪ねてみてはいかがであろうか？



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば日本◎株や為替相場などは◎つねに変動している◎のでいつでも資産◎成のチャンスをつ



Casa Brovarone

A Century of Dino Design 1926-2026 at Dino Point

ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば日本◎株や為替相場などは◎つねに変動している◎のでいつでも資産形◎成のチャンスをつか◎むことができるわけ

ハイブリッド・パナメーラの実力検証。ダミー



ダミー歴史的な低金◎利には相変わらず変◎化の兆しもないだが◎投が投資環境に目を◎向けてみれば日本◎株や為替相場などは◎つねに変動している◎のでいつでも資産形◎成のチャンスをつか◎むことができるわけ

